**令和5年度奨学論文**

**論題**

新書タイトルと関心経済－時代の変化によるタイトルとサブタイトルの変化－

経済学科4年　G043312020　中村航太郎

**要約**

人々の娯楽としてのコンテンツは大きく消費形態を変えている。

その要因のひとつが「サブスクリプションサービス」であり、消費者は自身が好まない作品を簡単に飛ばすことができるようになった。本稿の目的はそれに応じて製作されるコンテンツはどのように変化するのか、関心経済の理論に基づき明らかにすることである。

電子書籍が発展し始めた2006年から2022年を対象に出版社4社から販売されている新書3,240冊を「タイトルとサブタイトルの文字数」、「サブタイトルが設定されている新書の割合」、「タイトルとサブタイトルに用いられている単語」という3つのテーマについて検証を行った結果、タイトルは関心経済の理論に基づいて人々の「注目」や「関心」を集めるべく緩やかに文字数は少なくなる傾向を示し、タイトルの単語は出版当時人気のある単語が使用された書籍が徐々に増加傾向にあることが明らかになった。